

デジタルを活かした関係人口づくり DAO的考え方によって、デジタル島民を育成し持続的可能な島の未来を目指す

採択事業者名

DXを活用した中島の地方創生実行委員会

コンソーシアム構成員

株式会社NAKED | 株式会社for C

勉強会の実施概要

勉強会の目的	本事業の進捗状況や成果を共有し、ITへの興味関心を高め、横展開することにより地域のITリテラシーの向上を加速する。将来の担い手の育成と親の巻き込みの実施。
勉強会の当初のゴール想定と結果	松山市中島の小学校、中学校の生徒への勉強会を実施を想定。中島を出て、今治市のデジタルキッズクラブ今治、松山市の川原デザイン専門学校でも勉強会を実施できた。
参加者	コンソーシアムに加えて、中島中学校、デジタルキッズ今治、川原デザイン専門学校。
協議アジェンダ	ITリテラシーを高めるために、参加する生徒、学生に対して、iPadを活用したプロジェクトマップを共に制作することで、ITへの興味を醸成し、親の意識変革も行った。受講者からは、次年度も実施したい旨の意見をいただいた。
データに基づく協議ポイントの整理	ITリテラシーを向上し、ITに興味を持ってもらうことで地域でのIT担い手の育成を図る。そのために、定期的に勉強会を開催し、興味を醸成を行う。親などの参加によって、子世代だけではなく、親世代にもITへ知識醸成を行っていく。
主なデータ項目	参加人数、満足度
協議におけるガイドライン(含む具体例)	小学生、中学生、専門学生などで、ITなどへのリテラシーの違いがある。そのため、段階に分けて、授業の内容を変更していく。それぞれのリテラシーでの内容を変更していくことで、継続したITへの興味を醸成する。各人が進級していく中でコンテンツのレベルを上げていくことで継続的な興味を醸成を行う。
「実装成果」実現に向けた示唆/考察	2年間の実施の中で、参加者の満足度も高く、評判も良い状態である。継続するとともに、愛媛県内での横展開を推進し、県民全体のITリテラシー、興味を醸成を行う必要がある。

データ活用・協議の具体例

重要指標例	・参加者のITリテラシーレベルの一定化。 →県内のITリテラシーを高めていくために、既存地域の勉強会だけではなく、他地点での展開も進めていく		
	実装前	実装後	
	データ取得	ITリテラシーに関する教育は、回数的にも内容的にも少ない状態。各家庭の状況や、学校教育の方向性などでリテラシーなどは決まっていた。	クラス全員でプロジェクションマッピングを作るという、ソフト面から入るITリテラシー教育を行う。
	データ活用	個人の興味などに任せていた。	クラス全員が興味を持って取り組むことによって、全員が一定の同じ水準のリテラシーを確保することができる。
	実行	経験してきた内容などで、リテラシーが異なっていた。 ※そもそもITに興味のない家庭、子供がいる状態。	同じ経験を共有することで、各人のITリテラシーが一定水準に保たれる。
協議	そもそも、同じクラスなどでもITリテラシーのレベルなどが異なることが多く、教育などを実施するにしてもレベルの違いが課題となっていた。	一定の同じITリテラシー水準を持つことで、自発的にやってみようなどの意見が出るようになった。	

データ活用・協議による成果

・ITリテラシーレベルの水準を一定にすること、興味喚起をすることで同じクラスの中でITについての話題作りが起こるようになり、次年度以降への取り組みについての意欲が高まった。

